

5.診療活動

三越厚生事業団は公益財団法人の認可を受け公益財団法人三越厚生事業団となり、健診事業はもとより外来診療も一般の方々を対象とした公益事業として活動している。

三越診療所は新宿駅西口から徒歩5分という交通の便のきわめてよい場所に位置し、雨天の場合には地下道を利用することにより濡れずにご来所いただける。

当診療所には外来診療部門と健診部門があり、外来診療部門では通常の外来保険診療とともに、入社健診、健診の2次検査あるいは精密検査も受けられ、多くの方々にご利用いただいている。ワクチン接種については、自費診療でインフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、水痘（带状疱疹）、おたふくかぜ、B型肝炎、破傷風の各ワクチンの接種を実施している。受診者は一般企業の勤務者、新宿地区にお住まいの方、都内ならびに都外の遠方から来られる方など様々である。

診療内容については、一般内科以外に、脂質代謝、糖尿病、消化器、循環器、神経内科の各内科専門医、ならびに乳腺外科の専門医がいる。乳腺外科は原則的に予約制であるが、当日受診も可能である。

検査としては、一般血液、尿検査以外に、単純X線検査、心電図検査、**胸部X線、肺機能検査、眼底検査、ホルターならびに負荷心電図検査、24時間血圧測定検査、血管機能検査、胃透視検査、胃ならびに大腸内視鏡検査、ピロリ菌検査、デジタルマンモグラフィ、心臓・腹部・乳腺・甲状腺超音波検査、骨密度検査**が受けられる。**無呼吸症候群の診断確定のため、検査機器を自宅に送付し、結果を外来でお知らせすることも実施されている。**さらに、令和2年1月から健診オプションとして腹部CTを用いた**内臓脂肪測定検査**（保険適応なし）が可能となった。胃透視機器については平成29年高精度の新機器が導入され、診断能の向上が期待される。内視鏡検査にはがんの早期発見の手助けとなる**NBI（狭帯域光観察）内視鏡システム**が導入されている。胃内視鏡検査には**新しいマウスピース（エンドリーダー）**が使用され、通常のマウスピースよりはるかに楽に検査が受けられる。マンモグラフィについても昨年度7月最新鋭の**デジタル機器**が導入され、これまでより少量のX線量で質の高い画像が得られ、**検査時間の短縮と診断能の向上が期待される。**CT検査（単純ならびに造影CT検査）は平成27年に高性能の新機種が導入され、頭頸部・胸部・腹部の精密検査として施行される。なお、単純CT検査は平日午後1時から予約なしでご利用いただける。また、**血管機能検査（動脈の硬さの指標であるCAVI測定など）と頸動脈超音波検査による血管の動脈硬化度の測定、ならびに内臓脂肪測定は、社会的に注目されているメタボリックシンドロームに伴う動脈硬化に起因する心臓ならびに脳血管障害の予測に有用である。**画像検査の結果はすべてデジタル化しており、受診者に画像を見ながらわかりやすく説明している。これらの機器を取り扱う医師ならびに検査技師は、受診者への心配りのもとより、安全かつ正確で迅速な検査を心掛けており、機器や試薬についても新しい情報をもとに常に改善を図っている。

外来受診者の病気については、感冒、腹痛、胸痛、頭痛、動悸などの急性の病気から、高血圧、高脂血症、糖尿病、痛風、脂肪肝などの生活習慣病、慢性肝障害と胃腸病、不整脈、動脈硬化に伴う心臓病と脳血管障害などの慢性の病気まで、**専門の知識を持ち、経験豊富な医師（認定医および専門医）が診察にあたっている。**受診者のなかには、当事業団の三越総合健診センターで健康診断を受け、2次検査となった人、あるいは区健診の2次検査の人も多くみられる。また、当診療所は、区健診の2次検査としての胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査の指定診療機関となっているので、多くの方が1次健診に引き続き当診療所でこれらの精密検査を受けている。なお、平成30年から区健診の一次検査で希望者に胃内視鏡検査が実施されている。

外来は午前9時～午後1時、午後2時～午後5時まで診療し、午後1～2時は昼休みである。個人情報保護法の趣旨に従い、外来では名前の代わりに**番号での呼び出し**を行っている。当診療所は院外処方を採用

用しているが、専属の常勤薬剤師が処方された薬剤についての説明をしており、電話による薬の問い合わせについても、常勤医師あるいは薬剤師がいつでも対応できる体制にある。なお、令和2年度から施行された、新型コロナウイルス感染症の流行にともない外出を控えている受診者への電話再診（自覚的に安定している慢性疾患受診者について定期処方箋の自宅への郵送を実施していたので、来院は不要であった）は本年の7月で終了した。

紹介患者様については、病診連携の項をご参照ください。

栄養相談は、高脂血症、糖尿病、肥満などを対象に主治医の指導のもとに週1回管理栄養士が対談形式で行っている。

当診療所は来所された受診者が納得し、満足のいく医療を受けられるよう、医師、看護師・保健師、検査技師、外来受付事務担当者、ならびに健診センター職員が相互に緊密な連携をとり、最良の医療となるよう心掛けている。その一環として、学会、研究会、講習会への出席、レントゲンカンファレンス、定期的に行われる医療研修会、薬事委員会、全職員が参加する研究活動を通して、最新の医療情報や技術を常に入手している。そのなかで有用なものはインフォームドコンセントを得たうえで受診者のために活用している。今年度は新型コロナウイルス感染症流行のため一部の活動は縮小された。

受診者が病気の説明、待ち時間を含め、満足する医療を受けられるよう、当診療所の**全職員が良質の接遇を心掛けている**。

三越診療所（外来と健診センター）の詳細についてはホームページを参照いただきたい。

（船津和夫 記）

A. 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡は径がやや細めのオリンパス製電子スコープGIF-PQ260を2本使用し、受診者の負担の軽減に役だっている。さらに、内視鏡挿入時の咽頭の不快感を軽減するため、咽頭麻酔剤の使用とともに、サイレースを静注し（年齢・体重により投与量を調整）、軽眠状態で行っているため、楽に検査を受けられる。なお、お年寄りの方や前回麻酔が効きすぎた方あるいは一部の企業検診や区検診では、麻酔なしで検査する場合がある。平成24年度秋から新しいマウスピース（エンドリーダー）を使用し、通常のマウスピースよりはるかに楽に胃内視鏡検査を受けられるようになっている。また、数年前に内視鏡周辺機器が一新され、これまでより鮮明な画像が見られるようになった。特に、NBI（狭帯域光観察）内視鏡システムは食道・胃・大腸内の様子を明確に画像表示し、がんの早期発見の手助けとなっている。

内視鏡の消毒には、内視鏡学会の基準に則した強酸性電解質による殺菌を毎回行っている。内視鏡検査で慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍の所見がみられた場合には、内視鏡によるピロリ菌検査が実施されることがある。

令和6年度の施行件数は、男性351例、女性378例、計729例で、令和3年度の841例よりは少なかったが、令和4年度667例、令和5年度698例より多かった（表1）。経年推移をみると、平成29年度から令和元年度は1000例前後が続いたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け令和2年を中心に例数は減少した。令和3年から検査件数は改善しつつある。男女比では、女性が男性より多かった。男女比の推移については、平成20年までは男性が女性より多かったのに対し、その後は女性が男性より多い。

表1 胃内視鏡検査月別人数

（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	35	30	48	31	29	24	36	31	25	27	16	19	351
女性	18	19	31	22	18	23	76	66	40	27	19	19	378
計	53	49	79	53	47	47	112	97	65	54	35	38	729

症例の内訳は、健診で胃内視鏡検査を受けた人は494例（男性234例、女性 260例）（表2）で、令和3年度509例（男性208例、女性301例）、令和4年度 の371例（男性167例、女性204例）、令和5年度442例であった。健診以外の胃内視鏡検査受診者は235例（男性117例、女性118例）で、令和3年度の332例（男性150例、女性182例）、令和4年度296例（男性138例、女性158例）、令和5年度256例（男性122例、女性134例）より少なかった。その内訳をみると、2次検診として29例（男性16例、女性13例）で令和3年度の21例（男性8例、女性13例）、令和4年度の18例（男性12例、女6例）、令和5年度23例（男性13例、女性10例）より多かった。一方、他所からの紹介を含めた外来受診者における胃内視鏡検査件数は206例（男性101例、女性105例）で令和3年度の311例（男性142例、女性169例）、令和4年度の278例（男性126例、女性152例）令和5年度233例（男性109例、女性124例）と減少傾向にある。

外来からの胃内視鏡検査数は平成25年から胃内視鏡検査を受けたピロリ菌保菌者の除菌治療が保険適応になったため増加傾向にあったが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の流行のため減少し、そのまま減少傾向が続いている。

表2 胃内視鏡検査受診者の内訳 (人)

	健診	健診より2次	外来	他所より	計
男性	234	16	98	3	351
女性	260	13	99	6	378
計	494	29	197	9	729

胃内視鏡検査所見（表3）としては、例年どおり**食道は食道ヘルニアと逆流性食道炎が多くみられた。胃については、慢性胃炎、良性ポリープ、びらん、表層性胃炎がよくみられ**、胃潰瘍は7例（令和4年度、5年度は共に2例）であった。十二指腸については、例年通りポリープ、潰瘍瘢痕とびらんが多くみられ、潰瘍はみられなかった（令和4年度4例、令和5年度0例）。所見なしは62例であった。

表3 胃内視鏡検査所見 (人)

食道	食道がん	0	胃	胃がん	4	十二指腸	十二指腸がん	0
	食道乳頭腫	0		表層性胃炎	130		びらん	18
	粘膜下腫瘍	3		慢性胃炎	247		潰瘍	0
	白斑	1		胃潰瘍	7		潰瘍瘢痕	14
	逆流性食道炎	185		腺腫	5		ポリープ	29
	ヘルニア	258		良性ポリープ	311		憩室	1
	憩室	4		びらん	76		粘膜下腫瘍	7
	潰瘍瘢痕	0		潰瘍瘢痕	7		炎症	18
	カンジダ症	9		粘膜下腫瘍	25		所見なし	62
	パレット食道	40		憩室	1			
	ポリープ	5		残胃癌	0			
	びらん	3						

ヘリコバクター・ピロリ菌検査は内視鏡施行時、**ピロリテックテスト**が実施され、検査数は10例（男性5例、女性5例）であった（表4）。件数の推移については、平成23年度75例、平成24年度58例に比べ、平成25年度から平成28年度にかけては150～270例とこの4年間は比較的多かった。一方、平成29年度から令和3年度は20～40例、令和4年度11例、令和5年度15例と減少傾向が続いている。この減少傾向は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う胃内視鏡検査数の減少とこれまですでにピロリテックテストを受けた方が多いことに一因があると思われる。平成25年からの増加は後述するように胃内視鏡検査受検者でピロリ菌の除菌治療が保険適応になったためである。その後の減少は、内視鏡検査で新たに見つかる胃炎患者の減少も関与していると考えられる。

今年度のピロリ菌検査陽性率は90%（男性100%、女性80%）であった。陽性率は令和2年47.0%、令和3年度56.5%、令和4年度72.7%、令和5年度53.3%であった。令和2年度以降は症例数が少ないため、参考値と考えたい。

平成24年度までは、ピロリ菌除菌治療の保険適応は胃・十二指腸潰瘍、早期 胃がんの内視鏡治療後、悪性リンパ腫の一つである胃MALTリンパ腫、血液の難病の特発性血小板減少性紫斑病に限定されていた。ピロリ菌感染は胃がんの原因であり、その予防のために、平成25年度から胃内視鏡検査を受け、胃炎がある場合にピロリ菌検査と除菌治療が保険適応となったことから、胃内視鏡検査とそれに続くピロリ菌検査数は一時増加した。ピロリ菌陽性者のほとんどが当診療所で、抗生剤2種類と胃薬を1週間内服するピロリ菌の除菌療法（1次除菌療法あるいは2次除菌療法）を受け、ほとんどの人で除菌は成功している。

表4 ピロリ菌検査人数と陽性者数 (人)

	男性	女性	計
検査数	5	5	10
陽性者	5	4	9
陽性率 (%)	100%	80%	90%

胃内視鏡検査で発見された胃がん症例の4例を示す(表5)。依頼元は企業健診と区健診から1例ずつ、外来から2例であった。早期胃がんは2例で、59歳 男性のケースは当院では生検上グループ4(癌の疑いが極めて強い)であったが、紹介先病院では病変部位が判然とせず、経過観察となった。手術方法は早期癌の1例は内視鏡的粘膜下層剥離術で、進行がんについては腹腔鏡下手術あるいはロボット支援手術が施行された。

表5 胃内視鏡で発見された胃がん症例

性別	年齢	部位	進行度	術式(紹介)	依頼元	依頼先
女性	94	胃体部	進行	腹腔鏡下手術	外来	東京医科大学病院
男性	75	胃前庭部前壁	進行	ロボット支援手術	企業健診	慶應義塾大学病院
	77	胃体中部前壁	早期	内視鏡的粘膜下層剥離術	外来	済生会中央病院
	59	胃体上部小弯	早期	経過観察	区健診	東京医科大学病院

B. 下部消化管内視鏡検査

大腸疾患の検査については、注腸検査(肛門からバリウムを大腸に注入し、レントゲンを使って大腸粘膜の変化を観察する)は近年激減し、要精査になった場合大腸内視鏡検査が必要なことから現在は行われていない。大腸内視鏡検査は柔軟性に富み受診者に優しい最新型のPCF-H290Iを2本使用している。前処置として、腸管内の便を完全に排出するため、前日20時に下剤のニフレック1リットルを1時間かけ服用し、さらに、検査当日朝8時にニフレックの残り1リットルを1時間かけて服用する。また、緩下剤を前日就寝前に服用する。午後から検査が行われる。令和2年2月までは当診療所においてニフレックを飲用していたが、同年3月から自宅での飲用に変更となった。前投薬として、麻酔薬を注射する。

大腸内視鏡検査件数は73例(男性45例、女性28例)であった。件数の推移については、令和1年度150例、令和2年度94例、令和3年度128例(男性69例、女性59例)、令和4年度102例(男性57例、女性45例)、令和5年度122例(男性73例、女性49例)であったが、今年度は減少していた(表6)。新型コロナウイルス感染防禦のため、1日当たりの検査数を制限し、検査毎に消毒の徹底を図っている。

表6 大腸内視鏡検査月別人数 (人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	4	7	5	8	5	0	3	1	1	2	4	5	45
女性	1	2	3	2	3	6	1	2	2	3	2	1	28
総数	5	9	8	10	8	6	4	3	3	5	6	6	73

その内訳は、外来における検便潜血陽性および1年に1回のフォローを含む大腸内視鏡検査28例（令和4年度39例、令和5年度32例）、一般健診の便潜血反応陽性から40例（令和4年度54例、令和5年度80例）、区健診の便潜血反応陽性から4例（令和4年度5例、令和5年度4例）、他所からの大腸内視鏡検査依頼1例（令和4年度4例、令和5年度6例）であった（表7）。一般健診便潜血反応陽性による精密検査での大腸内視鏡検査が前年同様の多い傾向がみられた。

表7 大腸内視鏡検査受診者の内訳 (人)

外来より	28
一般健診で便潜血検査陽性	40
区健診で便潜血検査陽性	4
他所より紹介	1

内視鏡所見としては、13例が無所見（令和4年度27例、令和5年度18例）で、有所見としては、昨年同様に痔23例（令和4年度22例、令和5年度47例）、腺腫23例（令和4年度24例、令和5年度45例）、憩室23例（令和4年度34例、令和5年度31例）が多く、次いで良性ポリープ11例（令和4年度16例、令和5年度25例）であった。なお、潰瘍性大腸炎2例（令和4年度3例、令和5年度5例）、大腸悪性腫瘍2例（令和4年度2例、令和5年度2例）がみられた（表8）。悪性腫瘍症例数の経年変化をみると、令和1年度6例、令和2年度7例、令和3年度4例に比べ令和4年度からは2例とやや少なかった。。

表8 大腸内視鏡検査所見 (人)

がん	腺腫	良性ポリープ	痔	憩室	大腸炎	潰瘍性大腸炎	クローン病	直腸炎	平滑筋腫	びらん	所見なし
2	23	11	23	23	1	2	0	0	0	2	13

大腸内視鏡検査で発見された大腸悪性腫瘍2例の一覧を示す（表9）。男女1例ずつで、依頼元はいずれも当健診センターからの便潜血反応陽性のため、S状結腸がん（女性：早期がん）と直腸がん（男性：進行がん）各1例ずつであった。治療については、近くの病院を紹介し、前者は内視鏡治療で完治が期待された。後者については腹腔鏡下手術が施行された。

表9 大腸内視鏡で発見された大腸がん症例

性別	年齢	部位	進行度	術式（紹介）	依頼元	依頼先
男性	62	直腸	進行	腹腔鏡下手術	健診	東京品川病院
女性	49	S状結腸	早期	内視鏡的粘膜切除術	健診	東京女子医科大学 八王子医療センター

（船津和夫 記）

C. 腹部超音波検査・CT検査など

腹部超音波検査は第1, 第3木曜日と第2, 第4金曜日の午前中に専門医により施行されている。この検査は、空腹状態で施行され、放射線被曝なしに簡便に受けられる画像診断として広く汎用されており、臨床診断上とても有用である。検査の対象者は、診療所の外来受診者と生活習慣病健診の2次検査として腹部超音波検査を指示された人である。病気としては、肝および腎のう胞、脂肪肝、肝血管腫、胆のうポリープ、胆石と肝内結石、腎結石、前立腺肥大などが多く、超音波検査のみで確定診断できる。肝腫瘍については、超音波検査時のカラードップラー法による血流測定や造影CT検査により肝血管腫などの良性の病気と肝臓がんとの鑑別を行っている。また、慢性肝炎、肝硬変という肝臓がんが生じやすい患者様のフォローアップについては1年に複数回施行する造影CT検査と併用される。超音波検査の精密検査としてCT検査が必要な病気としては、肝腫瘍、胆管拡張、腎腫瘍、腎盂拡張、胆のう壁肥厚、脾のう胞、脾管拡張、膀胱腫瘍、甲状腺腫、腹部リンパ節腫脹がある。これらは悪性腫瘍が存在する可能性があり、精査もしくは経過を追って繰り返し再検査が必要である。

腹部超音波検査の所見の判定には、検査を施行する術者の主観が入ることがあるので、病変の正確な診断には術者の経験と検査手技が重要である。

当診療所では、超音波検査の専門医が施行しており、精密検査として造影CT検査も受けられるので、受診者は安心して検査を受けることができる。また、外来に来院された症状のある患者にとって、食事をしていても即時の検査対応が可能であり、早期診断の一助となる。

性別各月ごとの施行件数を表10に示す。腹部超音波検査の検査総数は男性64例、女性85例(計149例)であった(表10a)。経年推移をみると、平成30年度246例、令和1年度222例、令和2年度175例、令和3年度172例、令和4年度141例、令和5年度134例、今年度149例とこの5年間は少なかった。これは新型コロナウイルス感染症の影響で令和2～5年は例数が少なかったが、今年度はまだ例数が回復していないことを示している。

頸動脈超音波検査は近年注目されているメタボリックシンドロームに伴う心臓や脳の血管の硬さを反映する頸動脈の硬化度をみるもので、全身の動脈硬化進行度の指標になる。また、プラークと呼ばれる破裂すると脳卒中を引き起こす頸動脈の限局的な動脈硬化巣の発見にも有用である。

頸動脈超音波検査は37例(男性21例、女性16例)であった(表10b)。頸動脈超音波検査数の推移は平成29年度から令和1年度にかけては例年100例前後であったが、令和2年度68例、令和3年度73例、令和4年度45例、令和5年度42例、今年度37例と新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した検査数が回復していなかった。

甲状腺超音波検査は8例(男性1例、女性7例)施行された(表10c)。甲状腺超音波検査数については例年15～30例くらいであったが、今年度は8例と少なかった。

表10 超音波検査月別人数

(人)

		a 腹部超音波検査			b 頸動脈超音波検査			c 甲状腺超音波検査		
月	総数	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
4月	22	17	7	10	4	3	1	1	0	1
5月	24	21	13	8	3	1	2	0	0	0
6月	12	10	5	5	2	1	1	0	0	0
7月	15	12	4	8	2	0	2	1	0	1
8月	20	16	5	11	4	2	2	0	0	0
9月	19	15	4	11	4	2	2	0	0	0
10月	12	8	5	3	4	2	2	0	0	0
11月	24	17	7	10	6	5	1	1	0	1
12月	8	5	0	5	3	2	1	0	0	0
1月	10	7	4	3	1	1	0	2	0	2
2月	16	10	5	5	3	2	1	3	1	2
3月	12	11	5	6	1	0	1	0	0	0
	194	149	64	85	37	21	16	8	1	7

甲状腺エコーは女性の受診者が男性に比べ圧倒的に多く、これは男性より女性に甲状腺の病気が多いためである。

CT検査は、肺がん、肝臓がん、膵がん、胆嚢がん、胆管がん、腎がん、婦人科のがん（卵巣がん、子宮がん）、甲状腺がん、縦隔腫瘍などの悪性腫瘍や 脳疾患（硬膜下血腫、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍）の診断のために有用である。

また、令和1年度1月から健診オプション検査として、**腹部CTを用いた内臓脂肪測定**が開始された（保険適応外）。この内臓脂肪測定は腹囲測定に比べより正確に内臓脂肪量が判定でき、メタボリック症候群の診断上重要な検査である。

全CT検査数は396例であった（表11）。単純CT検査は外来・健診合わせて362例で、経年変化数は令和1年度688例、令和2年度432例、令和3年度467例、令和4年度389例、令和5年度341例で、前年よりやや増加したがまだこれまでより少なかった。

令和1年から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定が単純CT検査数の増加に寄与している。この数年間は新型コロナウイルス感染症の流行のため、健診・外来受診者数が減少し、CT検査数の減少に影響していた。単純CT検査は胸部CT検査と内臓脂肪測定のための腹部CT検査が多くを占めた。

一方、造影CT検査はほとんどが腹部で外来受診者に精密検査として施行され、今年度は34例で令和4年度、令和5年度の31例よりやや多かった。経年推移をみると、令和1年度62例、令和2年度40例、令和3年度32例であった。この症例数の一時的低下は新型コロナウイルス感染症による外来受診者数の減少が影響しているためと考えられた。

胸部CT検査はほとんど単純撮影で221例であった。平成27年度から平成29年度にかけては年間300例前後が続いたが、平成30年度から令和1年度にかけては400例前後と増加した。一方、令和2年度から令和4年度にかけては200～300例で、令和5年度182例と減少傾向にあった。今年度は221例とやや増加した。これも新型コロナウイルス感染症に伴う一時期の受診者の減少のためと考えられた。

腹部CT検査は単純CT検査16例、造影CT検査31例（計47例）であった。総件数については平成27年度から令和1年度にかけては100例前後が続いていたが、令和2年度79例、令和3年度67例、令和4年度58例、令和5年度49例と減少傾向にある。

令和1年1月から開始された腹部CTを用いた内臓脂肪測定は117例で単純CT検査数の増加に寄与していた。件数については令和2年度113例、令和3年度147例、令和4年度131例、令和5年度128例でほぼ同数が続いている。

頭頸部CT検査はほとんど単純撮影で令和4年度12例、令和5年度17例より少ない11例であった。

表11 CT検査人数

(人)

外来						健診		
単純CT 検査	頭頸部	10	造影CT 検査	胸部	2	単純CT 検査	胸部	114
	胸部	105		腹部	31		内臓脂肪	115
	腹部	16		頭頸部	1		計	229
	内臓脂肪	2		計	34		総計	396
	その他	0						
	計	133						

(船津和夫、植田充、茂木章子 記)

D. 病診連携

当三越診療所のある新宿区には、慶応義塾大学病院を始めとして、東京女子医科大学病院、東京医科大学病
院の大学病院があり、さらに近隣の大きな病院としては国立国際医療研究センター病院、大久保病院、東京山手
メディカルセンター（旧社会保険中央総合病院）、東京新宿メディカルセンター（旧厚生年金病院）がある。東海
大学医学部附属東京病院は今年度から外来のみとなり、入院施設は無くなった。いずれの病院も区医師会と病診
連携を行っており、その多くが区健診の精密検査の指定病院となっている。

急性疾患、慢性疾患のほとんどが当診療所外来で治療を受けているが、入院が必要な手術、医学的に入院加
療が必要であると判断される急性腹症・肺炎・心筋梗塞・脳血管障害などの急性疾患については、病診連携ルー
トを介して近隣の病院あるいは遠方から来院される方には受診者の希望される病院を紹介している。

今年度の紹介患者数は231件で、令和3年度168件、令和4年度188件、令和5年度161件に比べ多かった
（表12a）。新型コロナウイルス感染症患者数の減少に伴う外来受診者数の増加により、今年度は紹介患者数も
増加した。頻度の高い紹介病院として、例年、慶応義塾大学病院、東京医科大学病院があげられ、それ以外に
は東京女子医科大学病院、東京山手メディカルセンターなどであった。東海大学医学部附属東京病院は入院
ベッドがないため、今年度は紹介は無かった。

甲状腺疾患については、伊藤病院への紹介が多かった。また、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、
婦人科などについて精査が必要な場合には近隣の専門病院や医院を紹介している。紹介先としては、過半数が
大学病院もしくは大学病院と同規模の大病院である（表12a）。

検査については、CT検査は、造影検査を含め当診療所において施行しており、外部の検査センターへの依頼は
MRI検査が多い。他に外部への依頼には、心臓の冠動脈の狭窄をみるための心臓MRI検査と心臓造影CT検査
あるいは脳波検査がある（表12b）。

本年度の外部への検査依頼件数は84件で、令和2年度56件、令和3年度76件、令和4年度88件、令和5年
度79件とほぼ同数であった。検査数については、新型コロナウイルス感染症の流行時には外来受診者数減少の
影響がみられたが、今年度は回復傾向にあった。

検査結果については、いずれの検査も数日後に、検査データとともに専門医によるコメント付きの結果が当院に
郵送され、外来で受診者に検査所見を説明している。

依頼した検査センターとしては、メディカルスキャンニング、大久保病院、水町MRクリニックにMRI検査、心臓画像
クリニック飯田橋に心臓の冠動脈をみるためのMRI検査と造影CT検査を依頼した。

以上のごとく、当診療所は以前から大学病院をはじめとして、専門病院と病診連携を行っており、入院精査ある
いは治療が必要な受診者に対しては、適切な病院紹介と情報提供を行っている。

表12 紹介先病医院・検査センター 一覧

α 診療・手術目的	件数	β 検査目的	件数
慶応義塾大学病院	24	メディカルスキャンニング	64
東京医科大学病院	31	水町MRクリニック	1
東海大学医学部附属東京病院	0	心臓画像クリニック飯田橋	17
東京女子医科大学病院	2	大久保病院	2
東京山手メディカルセンター	5	計	84
東京都済生会中央病院	1		
その他大学付属病院	35		
その他病院・クリニック	133		
計	231		

E. 栄養相談

栄養相談は、主治医からの依頼を受け、病気の予防・改善を目的に患者さんの生活背景や食生活の内容を考慮して、実行可能な方法を患者さんと一緒に考え、食事計画を提案している。また、食事療法を継続することの重要性を理解していただくために定期的に栄養食事相談に来ていただき、長期に良好な自己管理が出来る能力を身につけていただけるようお手伝いをしている。本人とご家族に初回は30～60分、継続は20～40分間行っている。昨年1年間の対象者は27歳～85歳で平均年齢は男性53.3歳、女性59.8歳であった。

「流行りの糖質制限はよいのか?」「やせられない」「血糖を上げずに太りたい」「筋肉をつけたい」「コレステロール値が下がらない」「薬を減らしたい」「話題の健康食品はいいのか?」など様々な問題や悩みに対し食事、運動、生活面からアプローチをしている。

2型糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症などの疾患の多くは、朝食の欠食、夕食時刻が遅い、野菜料理が少ない、食塩の摂りすぎなど食生活に関係が深いことが言われている。これらはちょっとした工夫や食べ方で身体の負担を減らし、健康を維持することが可能である。生活環境や食事習慣をうかがい、年齢、性別、体格、活動量、症状、ライフスタイルに合わせて、オーダーメイドの食事プランを立てるようにしている。普段、食べている食事の栄養バランスが血液検査データや随時尿による推定食塩排泄量などと照らし合わせて、診断し話をさせていただいている。また食事記録による判定も行っている。

忙しくて来られない方や、「面談はちょっと」と思われる方には、食事記録と食事問診票による「書面栄養相談」を受け付けている。

昨年度の糖尿病健康教室は既定の人数が集まらず開催できなかった。

糖尿病健康教室は患者やそのご家族に対して、QOL(生活の質)向上と合併症の予防を目指し、定期的な参加により糖尿病との上手な付き合い方を身につけることができる。最新情報を交えながら、糖尿病専門医からは基礎知識・最新の治療について、管理栄養士からは食事療法の基本・応用について専門用語を避け日常生活に役立つ具体的な事例などでお伝えしている。

(管理栄養士 渡邊潤子 記)

個別栄養相談

日 時：第2、3、4の金曜日の午前中、第1木曜日の午前中

相 談 員：管理栄養士（糖尿病療養指導士）

対象疾患：糖尿病、肥満症、高血圧症、脂質異常症、痛風、腎疾患、消化器疾患、貧血、低栄養など

糖尿病健康教室

日 時：金曜日12:30～13:40（年2回 随時）

担 当：糖尿病専門医、糖尿病療養指導士（管理栄養士）

内 容：これからの糖尿病治療とは？ 食事療法（基礎編・応用編）

表13 個別栄養相談件数

項目	男 性	女 性	書面 栄養相 談	糖尿病	脂質 異常症	高血圧	肥満症	肝疾患	腎疾患	貧血	低栄養	計
人数	38	44	2	42	20	8	2	7	3	1	1	84

*複数の疾患を合併している場合は主病でカウントをしている

F. 嘱託産業医活動

各常勤医は、働く人の健康を確保するための産業保健に関する専門・技術サービスを提供する認定産業医の資格を取得し、各関連企業と契約をして嘱託産業医活動を行ってきた。

21世紀に入り構造不況が続き、内外にわたる環境や構造の変革が進み、各事業所においても職場組織・職場環境が大きく変化し、就業形態の多様化が進んでいる。令和元年度末にCOVID-19感染流行の波が繰り返し、非常事態宣言下での企業活動、テレワークを推進する状況となり、さらにロシアのウクライナ侵攻・イスラエルのガザ侵攻・トランプ関税と、ますます経済の停滞と昔の世界恐慌を超える不況も懸念されている。令和5年5月になってCOVID-19感染症は5類感染症に変更になったのでテレワークも少なくなるが、疾病を持っている職員やハイリスク該当者などが、そのままテレワークを続けるかどうかという基準も明らかなものはなく、現場では混乱している。職種によってテレワークが定着することもあり、働き方の多様性が見られる。企業内では、パワハラ・派遣労働社員問題や、勤務体制のシフト化による労働時間の変化、そしてテレワークで自宅での作業環境の変化や上司同僚とのコミュニケーション不足などがあり、COVID-19感染や戦争による漠然とした不安感に包まれるなかで、メンタルヘルス不調者が増えている印象であった。

平成27年12月より50人以上の事業所は職員にストレスチェックを行うことが義務化され、各事業所で実施されている。平成31年4月1日から「産業医・産業保健機能」と「長時間労働者に対する面接指導等」が強化されてきている。また高度プロフェッショナル制度対象労働者や研究開発業務従事者など、職種による面接指導を事業所にあったケースバイケースで対応することが求められている。その中で、企業は「健康経営」を目指し、産業医との連携がますます重要となってきた。

今年度は、当健診センターを利用している11の企業・事業所（昨年と同数）に対して、各常勤医（認定産業医）がそれぞれ担当になり、刻々と変化するCOVID-19をはじめとする感染症情報の提供や新型コロナウイルス感染後遺症の対応、健診で得られた結果をもとに生活習慣病管理やメンタルヘルスを含めた健康相談、労働者の健康管理を中心にした職場巡視、安全衛生会議参加による作業環境の管理や労働衛生教育、労働基準局への届け出、そしてストレスチェック後の高ストレス者面接などを、各企業の実態にあわせ工夫して実施している。

（山下毅 記）

G. 診療資料

1. 診療患者延べ人数

10,402名（令和6年4月～令和7年3月）

延べ人数内訳

・ 外 来	9,633名
・ 予防接種	722名
・ 精密検査	47名
計	10,402名

2. X線撮影件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	105	98	82	87	89	90	81	81	91	83	92	107	1,086
胸 部	36	38	30	36	29	36	30	30	32	18	30	30	375
入 社	36	16	22	16	21	23	18	18	17	30	22	32	271
外 科	0	2	2	1	1	1	1	1	0	5	2	4	20
腹 単	12	8	2	6	12	4	2	2	4	2	4	10	68
外来エコー	2	3	0	0	4	0	0	0	3	0	0	1	13
造影撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CT	頭頸	0	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	10
	胸部	9	4	11	15	3	12	8	8	13	9	7	105
	腹部	1	1	2	0	3	1	0	0	2	1	2	16
	FAT	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純	10	8	13	15	6	13	12	12	15	10	9	133
	E 胸部	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	E 腹部	2	3	1	3	1	0	2	2	6	2	5	31
	他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	造影	2	3	2	4	1	0	2	2	6	2	5	33
乳 房	5	13	10	7	14	10	13	13	15	10	9	7	126
頸動脈エコー	0	4	1	0	0	0	1	1	5	3	5	5	25
外来骨密度	2	3	0	2	1	3	2	2	0	3	5	3	26
消化器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食 道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療合計	105	98	82	87	89	90	81	81	91	83	92	107	1,086
胸 部	788	801	919	701	618	979	915	915	393	603	587	920	9,139
腹部超音波	198	170	225	182	138	767	468	468	195	193	188	244	3,436
頸部超音波	70	62	74	60	38	47	56	56	29	62	53	74	681
胃部間接													0
胃部直接	22	24	94	88	57	386	305	305	110	51	54	60	1,556
C T (C)	11	10	11	10	8	4	17	17	2	7	6	11	114
C T (F)	16	7	15	10	11	9	11	11	0	8	10	7	115
骨密度	53	44	61	49	32	52	77	77	33	51	48	50	627
マンモ グラフィ	91	117	177	139	117	150	246	246	119	156	146	254	1,958
乳腺エコー	2	3	2	2	1	3	14	14	4	19	18	42	124
定 健	258	351	330	325	196	328	141	141	0	15	34	204	2,323
健診合計	1,509	1,589	1,908	1,566	1,216	2,725	2,250	2,250	885	1,165	1,144	1,866	20,073
合 計	1,614	1,687	1,990	1,653	1,305	2,815	2,331	2,331	976	1,248	1,236	1,973	21,159

3. 臨床検査件数（健診）

年/月 検査名		R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月	合計
生化学的検査	GOT	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	GPT	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	γ-GTP	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	BUN	86	86	222	204	120	813	346	268	165	90	90	283	2,773
	クレアチニン	1,013	1,099	1,134	921	774	1,232	950	611	319	555	565	1,058	10,231
	尿酸	1,007	1,098	1,137	940	778	1,257	961	614	318	553	562	1,054	10,279
	中性脂肪	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	総コレステロール	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	HDL-コレステロール	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	血糖	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	989	645	340	588	594	1,098	10,739
	HbA1c	1,011	1,104	1,156	919	776	1,225	926	596	318	507	524	897	9,959
	インスリン	86	73	105	72	45	46	115	122	84	39	62	76	925
	その他	1,786	1,741	2,776	2,308	1,617	8,135	4,173	3,019	1,662	1,091	1,230	3,128	32,666
	生化学合計	12,381	13,139	15,000	12,280	9,724	21,773	14,394	9,745	5,246	6,951	7,191	14,182	142,006
血液学的検査	CBC	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	993	648	340	586	591	1,100	10,743
	血液像	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液合計	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	993	648	340	586	591	1,100	10,743
血清学的検査	高感度CRP	89	71	137	104	72	762	432	353	179	99	105	110	2,513
	CRP	39	39	53	42	46	22	66	37	11	13	21	30	419
	RF	30	29	23	32	16	29	30	17	6	10	20	22	264
	HBs抗原	55	66	68	78	62	713	51	37	31	22	25	39	1,247
	HCV抗体	32	42	31	55	35	14	20	22	25	14	28	25	343
	腫瘍関連	532	485	560	417	325	551	508	391	236	508	501	746	5,760
	血液型	36	36	46	40	44	16	35	14	8	13	14	23	325
	血清合計	813	768	918	768	600	2,107	1,142	871	496	679	714	995	10,871
一般検査	検尿	1,056	1,134	1,210	988	802	1,295	994	648	340	588	594	1,100	10,749
	沈渣	59	38	75	66	64	134	149	98	46	40	38	80	887
	便中Hb	750	764	828	564	528	913	719	508	263	505	503	811	7,656
	一般合計	1,865	1,936	2,113	1,618	1,394	2,342	1,862	1,254	649	1,133	1,135	1,991	19,292
生理学的検査	心電図	1,016	1,112	1,207	972	778	1,194	950	608	320	520	571	1,034	10,282
	肺活量	38	40	52	39	45	17	51	28	11	12	20	30	383
	眼底	134	135	284	213	137	136	571	453	256	166	170	211	2,866
	聴力	954	1,084	1,102	918	748	1,124	865	518	256	461	523	984	9,537
	生理合計	2,142	2,371	2,645	2,142	1,708	2,471	2,437	1,607	843	1,159	1,284	2,259	23,068
外注	感染症関連	157	105	113	103	85	796	78	42	32	13	23	39	1,586
	スメア(HPV)	109	91	187	145	118	128	257	217	114	89	136	207	1,798
	虫卵	14	6	7	2	8	4	16	10	2		11	12	92
	喀痰	5	5	5	3	8	10	15	7	2	2	15	11	2
	その他	739	517	733	609	465	431	603	410	217	309	422	473	5,928
	外注合計	1,024	724	1,045	862	684	1,369	969	686	367	413	607	742	9,492
総合計		19,281	20,072	22,931	18,658	14,912	31,357	21,797	14,811	7,941	10,921	11,522	21,269	215,472

4. 臨床検査件数（外来）

年/月 検査名		R6年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7年 1月	2月	3月	合計
生化学的検査	GOT	198	214	219	187	181	175	201	164	210	187	195	207	2,338
	GPT	199	214	219	187	181	175	201	164	210	187	195	208	2,340
	γ-GTP	153	166	178	149	155	143	172	142	171	172	169	181	1,951
	BUN	107	127	137	118	122	112	128	115	144	137	137	139	1,523
	クレアチニン	191	203	216	178	175	169	193	158	214	177	189	198	2,261
	尿酸	191	205	216	177	177	169	193	159	213	177	189	200	2,266
	中性脂肪	199	210	218	186	180	177	196	164	215	181	192	207	2,325
	総コレステロール	199	210	218	185	180	177	196	164	215	181	192	207	2,324
	HDL-コレステロール	199	210	218	185	179	177	196	164	215	181	192	207	2,323
	血糖	193	214	224	181	174	174	188	159	208	176	193	187	2,271
	HbA1c	180	210	215	171	173	169	183	155	203	174	192	179	2,204
	インスリン	6	5	4	5	2	2	2	2	2	2		3	35
	Na.K.Cl	140	144	159	115	118	118	139	101	147	119	138	146	1,584
	その他	738	791	823	672	692	647	793	613	778	735	770	825	8,877
	生化学合計	2,893	3,123	3,264	2,696	2,689	2,584	2,981	2,424	3,145	2,786	2,943	3,094	34,622
血液学的検査	CBC	172	175	200	155	146	142	173	135	177	148	167	177	1,967
	網赤血球	0	0	1	2	0	0	2	0	1	0	1	1	8
	像-ST	7	12	10	11	11	7	17	9	18	13	16	16	147
	血液合計	179	187	211	168	157	149	192	144	196	161	184	194	2,122
血清学的検査	高感度CRP	10	8	8	7	4	10	8	4	6	9	7	5	86
	CRP	14	13	12	7	13	11	20	11	18	17	14	17	167
	RF	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	5
	HBs抗原	6	13	5	10	4	5	6	6	2	7	3	9	76
	HCV抗体	7	13	5	9	3	5	6	6	2	7	3	9	75
	梅毒検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍マーカー	4	14	16	5	16	8	9	9	9	13	18	13	134
	血清合計	41	61	47	39	40	41	50	36	37	53	45	53	543
一般検査	検尿	64	70	80	71	68	68	85	74	88	62	76	68	874
	沈渣	47	50	54	53	48	51	53	55	65	47	45	54	622
	尿アルブミン	6	5	3	17	13	3	5	4	20	7	3	0	86
	妊娠反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便中Hb	2	2	3	2	1	0	2	0	4	0	0	1	17
	一般合計	119	127	140	143	130	122	145	133	177	116	124	123	1,599
生理学的検査	心電図	65	82	66	61	59	46	61	44	69	57	68	71	749
	負荷心電図	0	1	0	1	1	1	0	1	2	5	1	4	17
	ABI	3	3	4	5	2	2	1	5	3	1	4	1	34
	肺活量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	眼底	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	眼圧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聴力	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生理合計	68	86	70	67	62	49	63	50	74	64	73	76	802
外注	感染症関連	7	6	2	2	5	1	8	0	1	2	0	3	37
	病理関連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喀痰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌検査	0	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	0	7
	その他	91	69	83	106	105	55	103	71	108	93	111	126	1121
	外注合計	98	76	85	108	110	58	111	73	109	97	111	129	1165
総合計		3,398	3,660	3,817	3,221	3,188	3,003	3,542	2,860	3,738	3,277	3,480	3,669	40,853